



東京での成功がゴルフの未来に繋がる！ 「日本のゴルフ文化」を伝える大会へ

公益財団法人 日本ゴルフ協会（JGA） 山中博史専務理事に聞く



山中 博史さん

公益財団法人 日本ゴルフ協会

専務理事（COO）

外交委員会委員長・

オリンピック ゴルフ競技対策本部副本部長

東京オリンピック開催まであと4カ月あまり。

前回のリオ五輪に続き、東京にも世界のトッププレーヤーたちが集結する。

そこで、ゴルフ競技開催の中核の一端を担う組織に

オリンピックでのゴルフ競技や意気込みなどについてお尋ねした。

（『JGRA NEWS』vol.46 にダイジェスト版を掲載）

組織間のコーディネーターである JGA

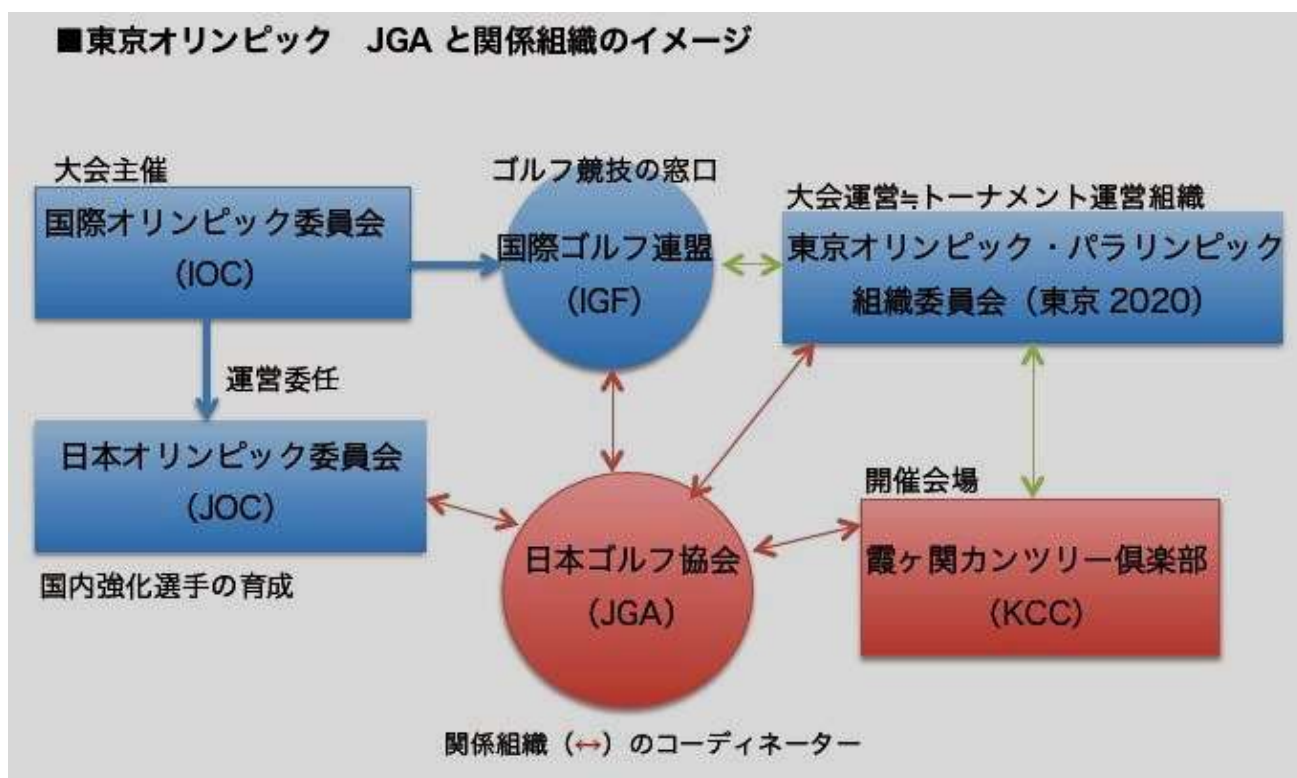
——最初に東京オリンピックのゴルフ競技における、JGA さんの役割を教えてください。

山中 オリンピックというのは、国際オリンピック委員会（以下、IOC）が主催者でオリンピックに関する全権を持っています。その下に各国のオリンピック委員会（以下、NOC）があり、日本の場合は、日本オリンピック委員会（以下、JOC）となります。NOCは、自国で開催される大会を成功に導く使命があります。大会の成功は何よりも自国の選手の活躍が一番です。そのため私たちのような各競技団体は、JOC から「メダリストになれるよう選手

を強化しなさい」と発破をかけられることとなります。そして、大会の運営にあたる組織委員会—今回ですと、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、東京 2020）—があります。

一方、ゴルフ競技の実際の運営については、IOC に加盟している国際ゴルフ連盟（以下、IGF）が東京 2020 とともに担当します。我々日本ゴルフ協会（以下、JGA）は、JOC と IGF の加盟団体となっています。なおかつ、会場の霞ヶ関カンツリー倶楽部（以下、KCC）は JGA の加盟ゴルフ場です。このように少し複雑な組織形態になっています。東京オリンピック開催にあたり、JGA ではプロ団体や東京 2020、KCC にも入ってもらい、「オリンピック・ゴルフ競技対策本部」を設置しました。

私たちは、JOC、IGF、東京 2020、KCC それぞれと、あるいは、各組織の間に立って連携を取りながらコトを進める、どこかで問題が発生すれば一緒に解決にあたるという、全体のコーディネーター的な役割を果たしているといえます。



オリンピック選手の選出方法と競技ルール

—先ごろ、2020 年度における JOC 認定の「オリンピック強化指定選手」の男女各 8 名が発表されました。その選手はどのように選ばれているのですか？ また、強化指定選手から必ず代表が選ばれるのでしょうか？

山中 強化指定選手は、昨年度の男女それぞれの国内ツアー最終戦が終わった時点で、日

本国籍を有する選手を世界ランキングの上位から選びます。中には辞退する選手もいますので、登録を希望した選手の上位から8名になります。

また、オリンピックに出場できるのは、男女ともオリンピックランキングの上位60名です。今大会の代表は、男子は6月22日、女子は6月29日発表のオリンピックランキングから選ばれます。また、選手の人数は、1カ国で最大2名までというルールがあります。しかし、ランキング15位までに入っていれば、1カ国で最大4名まで出場できるのです。例えば、現時点でのアメリカ男子の場合、ランキング15位までに9名入っていますが、最大4名までしか出場できません。タイガー・ウッズはアメリカ選手の中で5番目ですから、今のままでは出られないのです。日本の女子は、15位以内に3名入っていますから、今のままなら3名出られますよ、ということです。リオ五輪の時は、15位以内に入っていた日本国籍の選手はいなかったため、代表選手は男女とも2名ずつでした。

東京オリンピック大会は、現時点で男子はひとりも15位に入っていないので2名、女子は3名入っているのでは3名出られるのではと思っています。しかし、期限までに上位にジャンプ・アップしてくる選手がいる可能性もありますから、まだどうなるかはわかりません。代表選手は、JGAが決めるのではなく、オリンピックランキングで決まるのですから。我々としては、選手に頑張ってもらうしかないのです。

——ゴルフ競技では、開催国枠は適用されないのですか？

山中　ゴルフでの開催国枠とは、開催国の選手がひとりもオリンピックランキング60位までに入っていない場合は、1名は出場させてあげますよという枠です。その場合は、ランキングから59名を選び、開催国から1名の選手が出場することになります。日本が開催国枠を使うことはないと思います。あと1つ、「大陸推薦」という特例もあります。アメリカ大陸・ヨーロッパ大陸・アフリカ大陸・アジア大陸・オセアニア大陸の5大陸から1名も選ばれていない場合には、大陸から1名出場できるという枠です。この枠も使われることは、ほぼないと思います。

——選手のほとんどがツアープロですよね。彼らにとってはオンシーズンですから、さまざまなトーナメントに出場を続けていると思います。その中で強化合宿もされるのでしょうか？

山中　代表選手が決まるのは約1カ月前です。ましてやゴルフは個人戦ですから、基本的に個々で準備をやってもらうしかない。シーズンオフでも、海外トーナメントや個人のトレーニング、スポンサー関連の仕事などにより、どこかで集まって強化合宿をするというようなことはなかなかやりにくいのです。リオ五輪の前にも試みましたが、3名くらいの選手しか集まることができませんでした。ただ、強化指定選手になるとさまざまな特典も得られます。例えば、強化拠点での練習に際して発生する交通費や宿泊費などが公費で賄

われる、都内にあるナショナルトレーニングセンターが自由に使える、といったことです。その代わり、講習受講をはじめさまざまな義務が生じます。

一方で、強化指定選手に入らなくても、オリンピックに出ることは可能です。期限にオリンピックランキングの60位までに入れば、出場権を得ることができます。現状ですと、プロ選手がランキング上位を占めていますが、アマチュアの選手でも、プロのトーナメントで優勝して上位60名に入ってくれば、可能性はあります。実際、リオ五輪でも女子ではアマチュアの選手が1名いました。

—ふだんのトーナメントとはいろいろと勝手が違うのですね。そのオリンピックのゴルフ競技のルールなどに、ほかのトーナメントとの違いはあるのでしょうか？



山中 今大会に関しては、リオ五輪同様、個人戦のストロークプレーで4日間というもので、競技方法に違いはありません。

ただ、オリンピックとほかのトーナメントとの大きな違いは、メダル1つにつき1名の選手しか獲れる枠がないことでしょう。通常のトーナメントであれば、2位タイや3位タイなどがありますが、オリンピックにはタイがありません。つまり2位と3位を決めるプ

レーオフも行われるのです。また、ほかのトーナメントと違って賞金がありませんから、3位までに入らないと選手には何もありません（苦笑）。

ほかに違いを挙げるなら、予選落ちがないことでしょうか。選手たちは成績に関わらず、4日間戦います。

—その条件で選手がモチベーションを保つのは、大変ではありませんか？

山中 オリンピック競技は世界ランキングの対象競技です。そのうえポイントも高く、そこは選手たちにとって1つの魅力でしょう。しかし、何よりもオリンピックは国を代表し、日の丸を背負ってプレーするのですから、「オリンピックになる」ということが選手のモチベーションになっているのではないのでしょうか。また、前回大会を見ていると、選手たちが一番楽しそうだったのは、他競技の選手との交流や観戦でした。リオでのゴルフ選手たちは、選手村の中でいろいろな競技の選手と交流したり、水泳などいくつかの競技を観に行ったりしていました。これらは選手団に与えられた特典です。

ただ、東京大会のゴルフ選手団の多くは、おそらく選手村に滞在しないと思います。会場が遠いですし、宿泊施設が一人部屋とは限らないですから。さらに、今回はほかの競技会場と離れているため、選手たちは他競技の観戦ができるかどうか……。

選手たちのサポートと運営準備に奔走する人たち

——その選手たちを支える組織、とくにでは JGA さんではどのような動きをされていますか？

山中 JGA では、先ほどお伝えしたように、オリンピック・ゴルフ競技対策本部を設けており、その中に東京 2020 企画準備委員会と強化委員会の 2 組織を立ち上げています。前者は、東京 2020 などほかの組織と連動して、オリンピックを成功させるための情報を集め、イベントやプロモーションなどの企画と準備のために動いているものです。後者は、選手たちが少しでも集中して快適に過ごせるように、選手たちのバックアップ体制を整える組織です。例えば、期間中の宿泊や後方支援はどのようにするか、報奨金やゴルフ競技のユニフォームをどうするか、というようなことですね。強化対策委員長は PGA の倉本昌弘会長、副委員長が LPGA の小林浩美会長です。さらに、JGTO や IGF などゴルフ関連組織の方々に委員として参加していただいています。ほかにヘッドコーチの丸山茂樹さん、女子コーチの服部道子さんもメンバーです。要は、選手がオリンピックに向けていかにモチベーションを保ち、出場時に誇りを持ってプレーできる環境をつくっていくかという役割です。

——となると、強化委員会はオリンピック期間中も、ずっと選手のケアにあたるのでしょうか？

山中 それはまだわかりません。というのも、選手団というのは選手とそれぞれのキャディー、加えてあと 2 名くらいしかバッジ（会場内に入る権利）をもらえないのです。プロ選手の場合、個人のコーチやマネージャー、トレーナーがいます。ふだんのトーナメントですと、そういった人たちが選手個人をフルサポートしているのですが、オリンピックは少なくともバッジを持っていないと競技エリアに入れません。ですから、通常のトーナメントのようなサポートはできないと思われます。もちろん、大会のオフィシャルトレーナーやオフィシャルドクターはいたりするのですが、選手個人が連れて来られる人は限られます。その中で、全選手団にとってベストな体制を作るために、より慎重に選手団に入るメンバーを選ばなくてはなりません。丸山さんと服部さんも、ふだんから各選手へ技術指導をしているわけではありませんから、国際競技における心の持ち方へのアドバイスや、困った時の相談ができるメンタル・サポートが主な支援になるのではないのでしょうか。

ちなみに、前回大会では、選手が 4 名、キャディー



4名、男女兼任コーチの丸山さん、団長（統括マネージャー）の私、総務的な役割のチームマネージャー1名の、わずか11名の選手団だったのです。もちろん、竹田（JGA会長）や倉本PGA会長、小林LPGA会長らも会場にはいましたが、通常のバッジ（ゲストパス）しかもらえませんが、競技エリアに入れなかったのです。また、選手村に入れるのも、選手団だけです。

——そういえば、今回の五輪は酷暑が心配されていますが、ゴルフ競技ではどんな対策を講じられるのでしょうか？

山中 選手は暑いとは思いますが、厳しい暑さには慣れていきますから大丈夫でしょう。我々としては、観客のみなさんやボランティアのみなさんの方が心配です。また、時期的に雷の発生も危惧しています。開催地は季節的に夕方の雷雨が多い地域です。悪天候になった場合、選手に対しては、車を出してクラブハウスまで誘導というふだんと同様の対応ができますが、1万5000人から2万人もの観客へ同等のケアは不可能です。そのため、組織委員会でも酷暑と悪天候時の対策の2つを最重要課題として、協議を重ねています。また、医療体制も重要です。熱射病や脱水症状、心臓に不安のある方などへの対応、事故への対応など、こちらは東京2020で選手用と観客用の医療体制を作り、提携病院も決めて、ケースごとにシミュレーションをしています。

——プロモーション関連で、近々発表されそうなことはありますか？

山中 近々のトピックとしては、競技用ユニフォームと報奨金の発表をする予定です。

オリンピックはマークやエンブレムの使用許可1つをとっても制限が非常に厳しいですし、プロモーションについても、JOCや東京2020と相談をしながら進めていかなくてはなりません。例えばユニフォームですと、マークの入れ方やデザインにもIOCの許可がないと作れないのです。そのため、今はデザインをJOC経由でIOCに提出しており、認可待ちです。

実は競技用のユニフォームは、それぞれの国内競技団体がデザインも含めて費用負担をして作成します。しかし、認可するのはIOC。マークはどこにどう入れる、メーカー名はどのサイズ以内で1つだけなど、ルールが結構あるのです。

東京五輪への思い、ゴルフの未来へ

——この東京五輪で、ゴルフ競技が注目されるようなトピックスを教えてください。

山中 昨秋のZOZOチャンピオンシップでも証明されましたが、スタンプレーヤーがそろえば、ゴルフの潜在的人気はかなり高いと思います。リオ五輪ではトップ選手から出場辞

退が出たものの、予想以上の観客動員や視聴率が上げられました。東京大会では、今のところほとんどのトップ・プロたちが出場の意思表示をしており、おそらく相当数のスター選手が集まると思われます。また、東京 2020 からも、想像以上にゴルフ競技の人気が高いと聞きました。JGA にも海外からチケットの問い合わせが来ており、ゴルフ競技の国際注目度はかなりの高さですね。今の日本では女子プロの人気が高いのですが、このオリンピックの場合、チケットの申し込み総数は男子が圧倒的に高いようです。

余談ですが、数年前に全米オープンと全米女子オープンが同じコースで、2週にわたり連続開催されました。男子の時は、1日に3～4万人の観客が入ったのですが、女子はスタンドが半分も埋まらないくらいでした。世界的に見ると、ゴルフ競技は男子の注目度が高いのだと思います。オリンピックも同じ傾向にあると思われます。

それから、ゴルフは観客と選手の距離が近いスポーツです。間近でスタープレーヤーたちのプレーを観られるのは、ゴルフ競技の醍醐味ではないでしょうか。

——リオ五輪でのゴルフ競技は、112年ぶりの復活でした。本大会は復活から2回目となりますが、その点について特別な思いはありますか？

山中 1900年のパリ大会と1904年のセントルイス大会でゴルフ競技が実施されていたことが、そもそもすごいと。リオ五輪でゴルフが復活した理由は大きく2つあります。1つは、世界の多くの国でプレーされている競技であるということ。もう1つは、ゴルフがIOCにとって魅力的なコンテンツだったということです。今のIOCは、放送権やスポンサーの満足度、メディア注目度などを含む、ビジネス的成功度をかなり重要視しています。リオ五輪では、男子選手の出場辞退はありましたが、メダルを獲った人たちは全て世界ランキング上位のプロでした。なおかつ、リオという場所柄、心配されていた観客動員数は予想を大幅に超えたものになりました。アメリカでのTVの視聴率は、マスターズに続いて2番目だったそうです。これだけ注目を集めたことから、トッププレーヤー＝プロが出るゴルフ競技は、マーケティング上も大きな価値があるとIOCが判断し、ゴルフ界全体も同意したのです。まず、リオが成功して、東京と次回のパリまで競技の実施は決まっています。2021年にロサンゼルス五輪（2028年）の実施競技が決まりますが、東京で成功すれば、ロスでもゴルフ競技は残るでしょう。今大会はそういう意味で今後につながる、大きな責任を負っています。

選手によっては、ゴルフにはメジャーがあるためオリンピックは必要性を感じないと考える人もいます。一方で、オリンピック競技となることで、ゴルフがまだポピュラーでない国や地域で、国の助成制度やジュニア制度ができる、例えば



オのように会場を使って若い人たちを育てるプログラムができる、そのような動きが現れる可能性があります。日本のゴルフも、オリンピック競技になることによって、ナショナルチーム育成のため、国からの助成金が増額されました。人の価値観はさまざまですが、私はいいスポーツ選手を育てるためには、オリンピックスポーツであり続ける必要はあると思っています。

——最後に、この大会への思いや練習場へのメッセージをお聞かせください。

山中　オリンピック開催することによって何が残るのか。それは「レガシー」であるとよく



く言われます。ではゴルフにとってのレガシーとは何でしょうか。我々ゴルフ業界にとって一番大切なのは、「ゴルフする人を増やす」ことです。

今、松山プロや渋野プロらが国際舞台に登場してきて、どんな形であれ、ゴルフは注目されてきています。その中でオリンピックという一大イベントを通じて、日本の選手がJOCの期待するメダルを獲得することによって、さらにゴルフが注目される、それを機に「ゴルフを始めよう」「ゴルフをやってみたい」「ゴルフを続けたい」という人たちが出てくるでしょう。

そういう時に、ゴルフ練習場は一番身近にある入り口なのです。また、オリンピックは世界中から来た人々に「日本のゴルフ文化」や「日本のゴルフ状況」を伝え、触れ合ってもらえる機会です。ゴルフ練習場は競技としては直接オリンピックに関わらずとも、ゴルフ文化の入り口でもあります。そのような意識を、ゴルフ練習場の方々にも共有していただきたいと思っています。実際、JGRAさんには、代表選手のための資金集めにもご協力いただいています。このオリンピックを機会に、各ゴルフ産業や各領域において業界がワンチームとなってゴルフのイメージアップを図り、ゴルフの未来を創っていく支援をする、これが「レガシー」を創っていくことになるのではないかと考えています。

——どうもありがとうございました。

(聞き手＝『JGRA NEWS』編集部　取材＝2020年1月30日)

〔(公財) 日本ゴルフ協会とは〕

1924 (大正 13) 年に創立された、日本におけるゴルフ界の統括団体。トーナメントの主催・後援や競技ルールの制定、ゴルフの普及事業などのほか、国内のゴルフ選手の育成や強化にあたる。日本のゴルフ機関を代表し、1958 年に国際ゴルフ連盟 (IGF)、アジア太平洋ゴルフ連盟 (APGC)、1993 年に (公財) 日本オリンピック委員会 (JOC) に加盟。(公財) 日本スポーツ協会には 1992 年に加盟復帰。

(写真=JGA 事務所)



〔東京 2020 ゴルフ競技〕

■開催日程

男子	7月30日(木)～8月1日(土)	第1～第3ラウンド	7:30～15:30
	8月2日(日)	第4ラウンド、表彰式	7:30～16:00
女子	8月5日(水)～8月7日(金)	第1～第3ラウンド	7:30～15:30
	8月8日(土)	第4ラウンド、表彰式	7:30～16:00

■開催場所

霞ヶ関カンツリー倶楽部

埼玉県川越市大字笠幡 3398

URL <http://www.kasumigasekicc.or.jp>

■ゴルフ競技インフォメーション

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

URL <http://tokyo2020.org/jp/games/sport/olympic/golf/>

公益財団法人 日本ゴルフ協会

URL http://www.jga.or.jp/jga/jsp/jga_news/news_detail_15966.html

■マーク・エンブレムの使用ほか各種問い合わせ先一覧

<https://tokyo2020.org/jp/enquiry/>